

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ (1階ユニット)		
所在地	静岡県焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	平成28年9月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の入居者のその時々生まれるニーズの実現に向け態勢を整え対応できるように努めている。毎日の家事作業やレクリエーションに加え公民館で開催しているサロンへの参加など地域住民と触れ合える機会を多く設けている。防災訓練の際には地域の自主防災会とともに搬送方法の勉強会を開催し隣接施設の特養2階への避難訓練を実施した。毎月開催している全体会では入居者のケアに対する話し合いは勿論のこと各職員が講師となり勉強会を開催し常に新しい情報を取り入れレベルアップしていけるよう取り組んでいる。排便コントロールの一環として豆乳ミックスジュースの提供や介護する側の心のケアの勉強会など広い視野を持ちチームとして取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みつばの水耕栽培、野菜や花の植え付け、門松作りと月1回程度は訪れる園芸ボランティアをはじめ、傾聴、音楽療法、津軽三味線やフォルクローレと、地域との交流が日々あります。廊下掲示には職員の起案書が何枚も連なり、管理者の真摯なアプローチのほか、「有事には昇らせて」と住民から声が挙がる避難棟もあり、地域と1つになって利用者を支えている様子が確かです。職員が自ら研修内容を考へての毎月の勉強会の開催、また外部研修では学びを所内研修に落とし込み、例えばホスピスの研修では「お誕生日会には家族を招いて本人の想いが伝わるように」との取組みにつなげ、一人ひとりに寄り添ったケアへの実践があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行い、全職員が同じ方向に向かってケアを行っていくための道しるべとなっている。	職員が替わっていない(法人内の異動以外の退職がほとんどない)強みもあり、理念に基づく発言が職員に根付いていることを会議録で確認でき、またどの職員の挨拶、立ち居振る舞いにもサービス業に従事する人のプロ意識が滲み、感嘆するものがあります。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月2回公民館で開催される居場所づくりに参加。歌・折り紙・お話しなど地域の方と一緒に楽しい時間を過ごしている。顔見知りの仲間もでき毎月サロンの日が来るのを楽しみにしている。	園芸をはじめ傾聴、音楽療法と、地域のボランティアとの交流が日々あります。廊下掲示には職員の起案書が何枚も連なり、管理者の真摯なアプローチのほか、「有事には昇らせて」と住民から声が挙がる避難棟もあり、地域と1つになって利用者を支えている様子が観えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居場所づくりへ参加することにより地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。防災訓練においても地域住民と事前の打ち合わせを行うことにより認知症の人への支援の方法と一緒に学ぶことができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。運営推進委員の方も一人ひとりが会議に先立ち意見をまとめてくださり学びの多い活気ある会議となっており、会議での意見をサービス向上に活かしている。	当日に次回日程を諮ることで実施と参加率を確保しています。行政、地域、家族と万遍なく集うなか、それぞれからの情報発信が豊富で冒頭のスピーチだけで会議の半分を費やすほどです。その中で、例えば民生委員から「学童保育と一緒に～」といった貴重な意見があがっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告、助言をいただいている。また運営推進会議以外にもグループホーム連絡会などでも助言をいただいている。	運営推進会議に代理で出席の参加者からは「此処ならまた来たい」と言ってもらえたり、利用者の名前を覚えてくださっている介護相談員の訪問もあります。行政職員は運営推進会議に毎回出向いてくださっていますが、欠席の場合は議事録を必ず届ける態勢です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会にて身体拘束廃止の勉強会を開催している。焼津市介護相談員など来訪者からの言葉にも耳を傾け自身のケアについて振り返りを行っている。	人員配置が手厚いこともあって職員は帰宅願望にも寄り添うことができる環境にあり、また段階的に関わりを工夫するチームケアも確立しています。休憩時間には「休憩ですよ」「休憩に入ります」と相互に声をかけあうことが定着していて、ストレスケアが担保されています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い統一したケアを心掛けていく。全体会にて高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族会開催時にアンケートや意見・要望の聞き取りを行っている。また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。	家族とは面会だけでなく、5月バスハイク、6月家族会、8月夏祭り、10月秋祭り、誕生会と年間を通して顔を合せ、意見交換の場があります。「メニュー表はもらっているけど、実際見てみたい、食べてみたい」との声には、おかゆやとろみ剤を含む試食会を開いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。また年度毎に目標管理シートを各職員が作成し年間を通しての自己目標を明確にしている。年度末には評価・助言を行っている。	パートタイマー職を準職員と呼び、短い時間とせず1日(回)8時間勤務に整えていったことで正職員との意識差がない職場ができています。また、ユニット単体での会議では全職員が顔を揃えることができるようシフトを調整しています。また担当制により発信者としての自覚も育っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設理念と部署目標に基づき、個々の年間目標を作成し取り組み、年度末に達成度を評価している。また年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また外部研修にも積極的に参加させている。参加後には報告会を開き、施設全体がレベルアップするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のグループホーム連絡会に参加している。(1回/3ヶ月)。グループホーム全国大会で他施設が行っていた豆乳ミックスジュースの提供を取り入れ排便状態の改善につながっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。バスハイク・家族会・誕生会など入居者がご家族に見守られていることを実感できるよう交流の場を多く設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの喫茶店への外出。自宅のほか馴染みのある場所への外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。また家族だけでなく近所の方の面会も多くある。	月2回ある地区ごとの居場所づくり「みなとつちサロン」で新たに顔見知りをつくる一方で、地元ならではの刺身を堪能したり、通い慣れた喫茶店などへ家族が連れ出してくれます。珈琲好きの人にはキッチンにインスタントコーヒーのボトルキープもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。「今日はどうのように過ごそうか」「お風呂は何時頃に入ろうか」など日々の生活の中で自己決定する機会を多くもつようにしている。困難な場合には24時間シートを活用し入居者の想いの把握に努めている。	24時間シートで気持ちとともに動く1日の過ごし方をミエル化し、特にD-5「私の求める関わりシート」は大事として全職員が作成しています。すべての職員とは言い難いものの、本人の意向と趣に副って声をかけ、実際にパーソンセンタードケアが推進されていることも視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行う。ケアチェックは各入居者の担当と介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人に関わり介護計画を作成している。	各計画作成担当者は介護支援専門員の資格を持つことからユニット毎に独立したプラン化ですが、センター方式に裏づけられた堅固な記録を以て、普段ユニット間をシフトで行き来する職員の情報共有と実践がスムーズに叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。また統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど実施の2ヶ月前から入居者の希望を取り入れながら起案を立て準備を行う。「自宅に帰りたい」という希望のある入居者に対しては態勢を整え対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。近所のスーパーや喫茶店に出掛けることもある。「菊花展」や「まちかど展」など季節や芸術を楽しむ機会も取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。入居者1人に対し月2回の往診あり。家族へのムンテラも希望に応じて行っている。	月2回の訪問診療のある協力医に17名が変更しており、かかりつけ医を続ける1名については家族が受診支援しています。週4日勤務の看護師による健康管理とともに看護師と協力医の連携もあり、日常的に質問や確認がとれることで職員の安心にもなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。往診・受診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族に確認。家族と方針を共有している。カンファレンス開催時に急変時対応確認書にて家族の気持ちを再確認している。	急変時対応確認書を契約時に交わして意向を把握するとともに、「看取りはできない」ことを理解してもらい、終末期については経口摂取できなくなった時点で家族と相談して順次進めています。大抵は系列病院に移転するため、看取りへの取組みはなくとも職員もお悔みに出向きます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施した。	本番だけでなく事前訓練にも防災指導員、組長といった役職者の住民参加があり、「一般の人も習得する必要がある」との前向きな意見がたくさん集まっています。防災頭巾には本人が馴染んでいる呼ばれ方が記され、近隣者の助けを得やすくなる工夫もみられます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉だけでなく私たちのサービスすべてが接遇に通じる」ということを基本に置き対応している。職員間で助言し合える体制や雰囲気作りを行い、入居者の想いを第一に考え取り組んでいる。	例えば、食べた後の椀にお茶を注いでほしいという利用者に「そのままが美味しいですよ」と返しても、本人が「きれいにしたいのでいいんだよ」と言うと、「きれいにしたいんだね」と対応する “受容と理解”の場面を何度か見かけ、また職員間の私語がないことも秀逸です。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で些細なことであっても問いかけを行い自身で決めてもらうようにしている。また個々の能力を把握し過剰な介護にならないよう職員間で統一している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を入居者に聞くようにしている。その他、入浴時間も個々のペースに合わせて本人に決めてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー・パーマの実施。入浴前には職員と居室に行き、着たい服を一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節のメニューを取り入れている。メニューは入居者の意見を聞きながら作成している。切る→調理→配膳→片付けをそれぞれの入居者の得意とする部分に参加してもらっている。	併設事業所の管理栄養士の作った献立を基盤に、職員が状況に応じてアレンジし、食材は業者から届いています。季節メニューの日を設け、おやつにはプリンにデコレーションする等食レクリエーションも取り入れ、時節行事には豆まきやおはぎ作りをおこないます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援を行っている。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診を検討。食事前にはお茶でうがいを実施。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けを行っている。可能な限りリハビリからボクサーパンツへの移行を検討し皮膚状態の改善に努めている。また必要に応じて夜間帯のトイレへの声掛け誘導も行っている。	フロアに3箇所あるトイレには手洗い場が備わっていますが現在使用する人はなく、職員の誘導で洗面所でおこなっています。「入居したらチャレンジ」で、ボクサーパンツとパッドに切り替わっていく人がほとんどです。便秘予防に豆乳ミックスジュースを週3日飲んでいきます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活性化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴してもらっている。また入浴予定を伝え、1日のスケジュールを入居者自身に決めてもらっている。	週3日をめやすとする入浴への拒否には、「洋服を選びましょう」と段階を踏んで誘ったり、「今日は何時に入りましょうか」と時間を本人に決めてもらうことで、意欲を醸し出すことに成功しています。3面から脚を入れることができる浴槽には重度化しても2人介助で浸かってもらえています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。居室環境についても個々の希望に応じて統一したケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。与薬時には必ず本人の状態確認を行うことを基本としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、数独、カラオケなど個々の入居者が得意分野を発揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員間の連携を密にし入居者の希望に応じて外出している。家族とのバスハイクでは登呂遺跡・花カフェ・ショッピングモールなどに出掛けた。毎年夏にはブルーベリー狩りにも出掛ける。	日常的には天候と本人の状態がよければ「近くの公園まで」「併設事業所へ遊びに」、また「水まき」などに出ています。夏のブルーベリー狩りとバスハイクは年間計画に位置付けられ、登呂遺跡や静岡空港など名所、名跡にでかけています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。食費より出費し、一人ひとり好きなおやつを買いに行くこともある。グループホーム夏祭りではつばさ銀行の紙幣を作り駄菓子を購入できるコーナーを設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。また近況報告として秋にはメッセージカードをお正月には年賀状を家族宛てに送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	足を伸ばして過ごせるようソファや畳コーナーを設けたり、玄関先でゆったりとおしゃべりができるよう長椅子を設置している。また四季に応じた施設内のレイアウトにも配慮し、毎月入居者と一緒に壁画作りを行っている。	乾燥・水拭きモップに加え、体操でサークルになった際に改めて清掃したり、園芸の時間に備品の片付けも含む念の入り用です。また、「やや暗いのでは…」には、淡いオレンジ色が和む照明を順次蛍光色系に切り替え、利用者の状態や用途に応じて照度をエリア分けしています。	(利用者の症状が原因なこともあり困難かもしれませんが)2階は臭いがこもっているため、是正を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて適宜居室内に畳コーナーを設置している。また中庭の花や野菜の手入れを楽しみに毎日自ら中庭に出掛ける入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたチェストの持ち込み。家族の写真やお孫さんからの手紙を飾り、次回の面会を楽しみにしてる入居者も多い。	壁とカーテンは階で色替えのアレンジがあり、入口にはアクティビティ作品が飾られています。ベッドとクローゼットが備え付けてあり、また多くをリビングで過ごすこともあり、目立った持ち込みはテレビ程度ですが、来客の多い居室には可動式畳コーナーが常時貸し出されていました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者の方が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み食事を楽しみにしている入居者も多い。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295100164		
法人名	社会福祉法人 正生会		
事業所名	グループホームつばさ(2階ユニット)		
所在地	静岡県焼津市田尻北790		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	平成28年10月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kami=true&jiyosyoCd=2295100164-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成28年9月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々の入居者のその時々にも生まれるニーズの実現に向け態勢を整え対応できるように努めている。毎日の家事作業やレクリエーションに加え公民館で開催しているサロンへの参加など地域住民と触れ合える機会を多く設けている。防災訓練の際には地域の自主防災会とともに搬送方法の勉強会を開催し隣接施設の特養2階への避難訓練を実施した。毎月開催している全体会では入居者のケアに対する話し合いは勿論のこと各職員が講師となり勉強会を開催し常に新しい情報を取り入れレベルアップしていけるよう取り組んでいる。排便コントロールの一環として豆乳ミックスジュースの提供や介護する側の心のケアの勉強会など広い視野を持ち

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みつばの水耕栽培、野菜や花の植え付け、門松作りにと月1回程度は訪れる園芸ボランティアをはじめ、傾聴、音楽療法、津軽三味線やfolkloreと、地域との交流が日々あります。廊下掲示には職員の起案書が何枚も連なり、管理者の真摯なアプローチのほか、「有事には昇らせて」と住民から声が挙がる避難棟もあり、地域と1つになって利用者を支えている様子が確かです。職員が自ら研修内容を考へての毎月の勉強会の開催、また外部研修では学びを所内研修に落とし込み、例えばホスピスの研修では「お誕生日会には家族を招いて本人の想いが伝わるように」との取組みにつなげ、一人ひとりに寄り添ったケアへの実践があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員で理念を作成。会議の都度振り返りを行い、全職員が同じ方向に向かってケアを行っていくための道しるべとなっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	月2回公民館で開催される居場所づくりに参加。歌・折り紙・お話しなど地域の方と一緒に楽しい時間を過ごしている。顔見知りの仲間もでき毎月サロンの日が来るのを楽しみにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	居場所づくりへ参加することにより地域の方々の認知症の人への理解が深まってきている。防災訓練においても地域住民と事前打ち合わせを行うことにより認知症の人への支援の方法と一緒に学ぶことができた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	取り組みや現状報告を行い助言をいただいている。運営推進委員の方も一人ひとりが会議に先立ち意見をまとめてくださり学びの多い活気ある会議となっており、会議での意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて報告、助言をいただいている。また運営推進会議以外にもグループホーム連絡会などでも助言をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会にて身体拘束廃止の勉強会を開催している。焼津市介護相談員など来訪者からの言葉にも耳を傾け自身のケアについて振り返りを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員のストレスから虐待に至ることのないよう注意している。対応が難しい入居者については話し合いを行い統一したケアを心掛けていく。全体会にて高齢者虐待防止関連法について勉強会を開催している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ファイルを作成し、職員がいつでも閲覧し学べるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	実行している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。家族会開催時にアンケートや意見・要望の聞き取りを行っている。また、面会の際には必ず意見要望等の確認を行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会開催前にはすべての職員にアンケートを取り、職員の意見や提案を聞いている。また年度毎に目標管理シートを各職員が作成し年間を通しての自己目標を明確にしている。年度末には評価・助言を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設理念と部署目標に基づき、個々の年間目標を作成し取り組み、年度末に達成度を評価している。また年2回自己評価を行い、上司が個々の職員の努力に対し評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月隣接施設の内部研修に参加。また外部研修にも積極的に参加させている。参加後には報告会を開き、施設全体がレベルアップするよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	焼津市内のグループホーム連絡会に参加している。(1回/3ヶ月)。グループホーム全国大会で他施設が行っていた豆乳ミックスジュースの提供を取り入れ排便状態の改善につながっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暫定プランの作成。センター方式 B-3シートの記入。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	暫定プランの作成。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プランの作成。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	センター方式 D-5シートにて振り返りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	会議において家族との関わりについても話し合いを行っている。バスハイク・家族会・誕生会など入居者がご家族に見守られていることを実感できるよう交流の場を多く設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの喫茶店への外出。自宅のほか馴染みのある場所への外出について家族に提案し、必要に応じて協力体制を整えている。また家族だけでなく近所の方の面会も多くある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話や助け合いの気持ちを大切に、必要に応じて職員が間に入るようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者なし。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式 C-1-2シートの記入。「今日はどのように過ごそうか」「お風呂は何時頃に入るのか」など日々の生活の中で自己決定する機会を多くもつようにしている。困難な場合には24時間シートを活用し入居者の想いの把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居希望者調査資料の作成。 センター方式 B-3シートの記入。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式 C-1-1、D-1、D-2シートの記入。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式によりケアチェックを行う。ケアチェックは各入居者の担当と介護支援専門員が行い、D-5シートは他5名の職員が記入。本人・家族からの意見の聞き取り。多くの人が関わり介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録の記入を行っている。また統一したケアを行うことができるよう特記事項については別紙にて保存、SOAPファイルにすべての情報を集約し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	園芸・誕生会・レクリエーション・季節メニューなど実施の2ヶ月前から入居者の希望を取り入れながら起案を立て準備を行う。「自宅に帰りたい」という希望のある入居者に対しては態勢を整え対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加。近所のスーパーや喫茶店に出掛けることもある。「菊花展」や「まちかど展」など季節や芸術を楽しむ機会も取り入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との情報の共有。入居者1人に対し月2回の往診あり。家族へのムンテラも希望に応じて行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している。往診・受診時の結果についても看護職員から介護職員へ申し送りを行い、看介護ともに統一したケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携を図り、実施している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については適宜家族に確認。家族と方針を共有している。カンファレンス開催時に急変時対応確認書にて家族の気持ちを再確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修会等で勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの整備、定期的な防災訓練の実施。地域住民とともに隣接する特養2階へ入居者を搬送する訓練を実施した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「言葉だけでなく私たちのサービスすべてが接遇に通じる」ということを基本に置き対応している。職員間で助言し合える体制や雰囲気作りを行い、入居者の想いを第一に考え取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の様々な場面で些細なことであっても問いかけを行い自身で決めてもらうようにしている。また個々の能力を把握し過剰な介護にならないよう職員間で統一している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何をして過ごしたいか」を入居者に聞くようにしている。その他、入浴時間も個々のペースに合わせて本人に決めてもらうようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容時のカラー・パーマの実施。入浴前には職員と居室に行き、来たい服を一緒に選ぶようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回季節のメニューを取り入れている。メニューは入居者の意見を聞きながら作成している。切る→調理→配膳→片付けをそれぞれの入居者の得意とする部分に参加してもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特養の管理栄養士から助言をもらいながら、看介護職員が情報を共有し支援を行っている。食事形態や摂取方法など日々検討し援助している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い口腔内の清潔保持に努めている。必要に応じて歯科受診を検討。食事前にはお茶でうがいを実施。食事をおいしく・安全に食べることができるよう嚥下体操を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けを行っている。可能な限りリハパンからホクサーパンツへの移行を検討し皮膚状態の改善に努めている。また必要に応じて夜間帯のトイレの声掛け誘導も行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給やメニューに乳製品や野菜を取り入れたり、散歩や運動を行い腸の動きを活性化させ自然排便を促している。排便状態の把握・腹部マッサージに加え、週3回豆乳ミックスジュースを提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の希望に応じて入浴してもらっている。また入浴予定を伝え、1日のスケジュールを入居者自身に決めてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じた静養時間の確保。また夜間ぐっすり眠れるよう、日中の活動量の調整を行っている。居室環境についても個々の希望に応じて統一したケアに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬事情報のファイリング実施。与薬時には必ず本人の状態確認を行うことを基本としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業、数独、カラオケなど個々の入居者が得意分野を発揮し楽しめるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員間の連携を密にし入居者の希望に応じて外出している。家族とのバスハイクでは登呂遺跡・花カフェ・ショッピングモールなどに出掛けた。毎年夏にはブルーベリー狩りにも出掛ける。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人管理のもとお金を持っている入居者もいる。食費より出費し、一人ひとり好きなおやつを買いに行くこともある。グループホーム夏祭りではつばさ銀行の紙幣を作り駄菓子を購入できるコーナーを設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話の取次ぎや手紙の投函を行っている。また近況報告して秋にはメッセージカードをお正月には年賀状を家族宛てに送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	足を伸ばして過ごせるようソファや畳コーナーを設けたり、玄関先でゆったりとおしゃべりができるよう長椅子を設置している。また四季に応じた施設内のレイアウトにも配慮し、毎月入居者と一緒に壁画作りを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の入居者のニーズに合わせて適宜居室内に畳コーナーを設置している。また中庭の花や野菜の手入れを楽しみに毎日自ら中庭に出掛ける入居者もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたチェストの持ち込み。家族の写真やお孫さんからの手紙を飾り、次回の面会を楽しみにしている入居者も多い。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには入居者が書いてくださった「便所」という看板を使用している。ホワイトボードに書かれたメニューを読み食事を楽しみにしている人も多い。		